

# 第1学年 総合的な学習の時間 学習指導案

## 1 単元名

いじめを許さない学級

## 2 単元目標

いじめ問題を自分や学級の問題点と関わらせて考えることを通して、自分の弱さがいじめを助長する原因になることに気づき、仲間を悲しませる人になり得る自分を見つめ、自分の課題を克服していくことでいじめのない学級にしていこうという意欲をもつことができる。

## 3 単元の流れ（全7時間）

時	時案名	ねらい	学習活動	資料	評価規準
1	学習への意欲	「いじめ」問題が身近に起こり得る問題であることを痛感し、真剣に取り組むべき問題であることに気づくことができる。	【気づく】 DVDを見ることを通して、いじめのひどさを実感するとともに、感じたいじめへの思いを感想に書く。	・DVD「いじめと戦おう（前半）」 ・感想用紙	いじめは絶対に許されないものであり、これからの学習に真剣に取り組もうという思いを感想用紙に書いている。
2	思いやりの心	いじめが人を苦しめ、つらい思いにさせていることに気づき、いじめのない学級にするために行動する必要があることを理解することができる。	【気づく】【わかる】 A子さんの気持ちを考えることを通して、A子さんのつらい思いに気づくとともに、共感する。	・前時の感想メモ ・資料「私は忘れない」	いじめは一生の傷を心に与える残酷なものであり、いじめをなくしていこうという思いを表出している。
3	公正・公平な態度	いじめや仲間はずれにする人のひどさがわかり、誰に対しても公正・公平に接していこうという意欲をもつことができる。	【わかる】 園田さんを通して、いじめや仲間はずれをする人に対する思いを考え、交流し合う。	・前時の感想メモ ・資料「山川くんのこと」	いじめる側のひどさを強く感じ、その思いを表出している。
4 (本時)	弱さの自覚	帰りの会に手を挙げられなかった園田さんの気持ちを考えることを通して、自分自身を見つめ直し、自分の中にも園田さんと同じような弱さがあることに気づくことができる。	【わかる】【見つめる】 園田さんの気持ちを自分と置き換えて考えることを通して、どうして手を挙げることができなかったか考え、話し合う。	・前時の感想メモ ・資料「山川くんのこと」	いじめられる側にとっては、傍観者もいじめる側と同じであることが分かり、自分と比較しながらその思いを表出している。
5	いじめを許さない自分	自分の弱さを克服するための課題を見つめ、学級の中のいじめや仲間外れを許さず、問題を解決するために行動しようという強い思いをもつことができる。	【見つめる】【乗り越える】 「もしこの学級でいじめがあったら自分はどうするのか」を考えることを通して、自分の問題としていじめ問題をどのように解決するかを話し合う。	・前時の感想メモ	自分と異なる立場の仲間の思いから自分を見つめ直し、いじめを許さない自分でありたいという願いを表出している。
6	いじめを許さない学級	いじめを許さない学級にすることを確認し、一人ひとりがいじめのない学級の実現に向けての具体的方策をもつことができる。	【見つめる】【乗り越える】 いじめを止めたいという同じ思いをもちながら、いじめを止めようとする人とそうでない人の行動の裏にある思いを考え、話し合う。	・前時の感想メモ	いじめを許さない学級にするために、日常生活の中で自分がどんな努力をすればよいのかが分かり、それを表出している。
7	いじめの学習から学んだこと	いじめについての学習を通して見つめてきた自分の心を振り返り、いじめをなくすためにどのように生活していくかを考え、表現することができる。	【見つめる】【乗り越える】 この単元の学習を通して見えてきた自分の弱さを見つめながら作文を書く。	・作文用紙 ・アンケート用紙	今までの学習をもとに、「いじめを許さない学級」にするための今後の自分の決意を作文にまとめている。

<本時の目標> 帰りの会で挙手できなかった園田さんの気持ちを考えることを通して、自分自身を見つめ直し、自分の中にも園田さんと同じような弱さがあることに気付くことができる。

階級	主な学習活動	留意点と評価
導入	<p><b>1 前時の感想を交流し、学習の振り返りをする。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめをする人や周りで笑っている人を許せない。</li> <li>・何も言わないからと言って、足をかけたりたたいたり、落書きしたりするなんて、本当にひどい。</li> <li>・体のことを言って、そのことをあだ名にするなんてひどい。</li> <li>・山川君が自分から言うまでほかっておけばいいというのはおかしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園田さんも山川君へのいじめをひどいと感じていたことを確認し、そんな園田さんが「手を挙げられなかった」思いを考える本時の課題へつなげていく。</li> </ul>
展開	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">自分が園田さんだったらどうするか考えよう</p> <p><b>2 園田さんは、帰りの会でどうして手を挙げることができなかったか、自分の思いを発表する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平山君たち以外にも山川君のことをからかっている人が多いので言い出しにくかった。</li> <li>・山川君のことを悪く言う人たちが、自分にも何か言ってくるのではないかと考えた。</li> <li>・言わなければいけないのは分かっていたけれど、自分だけが問題にしてもみんなは真剣に考えてくれないと思った。</li> <li>・自分も「ゆでだこ」と言ってしまう、山川君のことを考えていなかったし、平山君や杉田君のことをひどいと言えなくなった。</li> </ul> <p><b>3 もし自分が園田さんの立場だったらどうするか、自分の考えを書く。</b> 自分だったらどうするか、自分の立場を明らかにして書く。</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;"><b>【手を挙げる】 【迷う】 【手を挙げられない】</b></p> <p><b>4 考えを交流する。</b></p> <p><b>【手を挙げる】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山川君はひとりで苦しんでいるので、助けてあげなければいけない。</li> </ul> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> </div> <p><b>【迷う】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山川君に対するいじめだから、言おうと思うけれど、言ったあとどうなるかを考えると迷う。</li> <li>・自分が困る立場になるから、今ここで発言することは少し怖い。</li> <li>・杉田君たちのやっていることは、本当にひどいから言おうと思ったけれど、自分も「ゆでだこ」と言っていたので、同じかもしれない。</li> </ul> <p><b>【手を挙げられない】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平山君、杉田君のような人には、怖さがあるので言えない。</li> <li>・自分が発言することで、ほかの人がどう思うかすごく心配になる。</li> <li>・普段からクラスの中で発言していないから、この時だけ言うことはできない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料の後半をもう一度範読する。(掃除の点検表の件から)</li> <li>・園田さんが手を挙げられなかった思いには、周囲の人の反応(世間体)やその後の人間関係(自分勝手)を意識したもの、仲間への不信感(偏見)、また、自分も山川君の嫌がることをしてしまったことへの後悔などがあると考えられる。</li> <li>〈補助発問〉 「園田さんの気持ちわかる」と聞くことで園田さんが悩んでいたことに共感できるようにする。</li> <li>・黒板にネームプレートを貼って、立場をはっきりさせて話し合いに臨ませる。</li> <li>・手を挙げられなかった理由には次のような意識があると考えられる。</li> <li>(ア) 自分勝手な意識</li> <li>(イ) 誤解偏見に基づいた意識</li> <li>(ウ) 優越感・劣等感・違和感による意識</li> <li>(エ) 世間体に左右される意識</li> <li>・「迷う」も含めて手を挙げられない理由を確認することで、自分の中にある弱さに気付かせる。</li> <li>・「手を挙げる」と考える人の意見について、他の立場の人にも考えさせることで心の葛藤を生み出す。</li> <li>(補助発問) 山川くんは、園田さんのことをどう思っているだろう。</li> <li>・何も行動に移せない傍観者もいじめる側だと気付かせる。</li> <li>・言えない、手を挙げられないと、いじめられている人はそのまま、いじめはなくならないことに気付かせ、自分の意思をはっきりさせることの大切さに気付かせる。</li> </ul>
終末	<p><b>5 本時の学習を通して考えたことを書く。</b></p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <p>私は初め「迷う」と考えた。誰も言わない中で、自分から手を挙げることはすごく怖さがあった、手を挙げられるかわからないと思った。でも、誰かが言わないといじめはなくならないし、山川君の気持ちになって考えたら、自分の意思をはっきりさせないといじめをしている側になってしまうと思った。だから、いじめがなくなるように行動できるようになりたい。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初めの考えとどのように変容したかを書くように促す。</li> </ul> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;"><b>【評価規準】</b></p> <p>いじめられる側にとっては、傍観者もいじめる側と同じであることが分かり、自分の中にある弱さに気付いている。</p>